

2008年 夏野菜講習会

要点のまとめ

2008年4月26日（土）午前10時～11時30分

講師：笹川一郎（田舎暮らし応援隊 隊長）、高橋正道（田舎暮らし応援隊 副隊長）

まとめ：クライנגアルテン妙高運営協議会

【概論：笹川】

- ・ 苗は育つ場所に合うよう、出来るだけ標高の高いところで育った苗を買った方がいい。
- ・ 畑起しは土を活性化するための作業。
- ・ 土は「温度」「水分」「養分」の3条件が必要。
- ・ 『適期』に植えることが大切である。
- ・ マルチは雑草を防ぐためと、地温を上げる効果がある。
- ・ 実のなるものは支柱が必要。
- ・ 植えつける際、株間も大切。
- ・ 作付けの時期は畑の環境によって異なるので、平場よりも若干遅くなる。
- ・ 周辺の農家の様子を見ながら、また相談しながら行って欲しい。

【作付けについて：高橋】

- ・ 作付けは時期にあわせることが重要。
- ・ 例年消雪日は4月15日から20日である。
- ・ 作付けに適した地温は15℃以上である。これは1日の最高気温と最低気温を測り、その中間が15℃以上になれば適期であると判断する。
- ・ 土と太陽、雨といった自然が作物を育ててくれる。我々はその手助けをするくらいであると考える。自然に逆らわないことが大切。
- ・ クライנגアルテン妙高の場所は「準高冷地」である。8月は気温35℃になるので、夏の葉ものの生育は苦しい。
- ・ トマトや茄子には適している。
- ・ 産直センター「とまと」の古川店長が元JA営農指導員であるので、応援隊は勿論のこと、この人に指導を受けるのもお勧めする。

- 当地の土は「黒ぼく」といい、概してやせた土である。また火山灰の影響で酸性が強い。したがって堆肥は毎年入れ、石灰も入れる必要がある。
- 販売している肥料の表示の見方。3つ並んだ数字の左から「窒素」「リン酸」「カリ」の準でその配合バランスを示している。当地の場合、中間の「リン酸」が高いものが適している。
- マルチであるが、透明なものは地温を上げる目的。黒色のものは除草の目的である。
- 作物は毎日何かしら手間をかけたくなるものであるが、構いすぎるとダメなものである。
- 雨降りときは畑に入らないのは、土を踏んで固くしてしまうのを防ぐためである。土が固くなると根が張れず病気の元になるのでご注意ください。
- 春先は霜枯れが心配であるかもしれないが、当地では遅霜は心配しなくてよい。
- 畝の方向であるが、風の方向と水はけを考えて作ること。
- 堆肥は表面にまく。部所部所に入れる。
- 水遣りは地下水があるので心配要らない。
- クラインガルテンの畑は土を新たに入れているので、若干周辺の農地と環境が異なる。初年度は土の性質を知るようなつもりで取り組んでいただきたい。
- のんびりと構えて焦らず、やりたいことをやってください。